

入選

後悔と実行

千葉県 第三中学校 3年 駒米 創陽

風の強い日が何日も続いていた夏休みのその日、母に荷物持ちをたのまれ、買い物につきあわせられました。買い物の前に市役所に寄ると言うので、僕は車の中で待っていることにしました。ふと前方を見ると、10数メートル先に駐輪場が見え、強風にゆれながらびっしりと自転車が並んでとめてありました。一番外側の自転車は、今にも倒れそうなくらいゆれていました。母が戻るまでは少し時間がかかりそうなので、音楽でも聞いて待っていようとイヤホンを耳につけると、車がゆれるほどの強風が吹き、駐輪場の自転車が7、8台将棋倒しになったのが目に入りました。

すると、そこに女性が来て、困った様子で1台ずつ起こして自分の自転車を出そうとしているようでした。3台目を起こしているときに、中年の男性が通りかかり、自転車を起こすのを手伝い始めました。そこへ別の女性が走ってきて、3人ですべての自転車を起こし終わると、最初にいた女性はほかの2人に何度も頭を下げてお礼を言っているのがわかりました。

ぼくはその様子を、ただ車の中で見ていただけで、なにもできずにいた自分がなんだか恥ずかしく思いました。僕は、あの三人より若いし、力にも自信があるし、すぐ向かって手伝ってあげられたら、と思うと悔しくて、情けなくて、なんともいえない気持ちになりました。

そんな後悔をしていると、また強風が吹き、また駐輪場の自転車がバタバタと倒れてしまいました。もう先ほどの3人はいなくなっていました。小さな子どもを連れた女性がちょうど自転車を出そうとしているところでした。その女性はびっくりしたようで、少しぼうぜんとして、困っていました。このとき、僕はすぐ車から出て走って駐輪場へ向かい、外側の自転車から1台ずつ起こし始めました。女性が手伝おうとしてくれましたが、小さな子どもといっしょだったので、

「僕がやるので大丈夫です。」

と言って、倒れていた6台の自転車を起こし終わると、女性は、

「ありがとうございました。助かりました。」

とこんな僕にお礼を言ってくれました。僕は照れるのと同時に、さっきできなかった自分を思い出して、お礼を言ってもらうのが恐縮で、恥ずかしくてたまりませんでした。

なんでさっきはできなかったのだろう。親切にすることとは決して難しいことではないけれど、少しの勇気が必要な気がしました。人にやさしく接すると、人にやさしくしてもらえる、とよく母が言っているのを思い出しました。決して見返りを求めることではないけれど、ほんの数10分のこのできごとで、後悔だけにならずによかったと、手を差しのべる、人を思いやるという親切が自然にできる人でありたいと強く心に思いました。